会議議事録

会議の名称	令和６年度　第３回さぬき市子ども・子育て会議
開催日時	令和７年１月 31 日（金）14 時 30 分～15 時 55 分
開催場所	さぬき市寒川庁舎　３０１・３０２会議室
出席者氏名	松原委員、杉浦委員、三谷委員、大山委員、山下委員、山中委員、新開委員、岡本委員、朝倉委員、川地委員
欠席者氏名	松本委員、射場委員、阿部委員、山本委員
事務局職員氏名	健康福祉部 中川部長、教育委員会 佐藤部長、幼保こども園 酒井課長、 国保・健康課 藤井課長、学校教育課 高西課長、子育て支援課 谷課長、 幼保こども園課 西川、国保・健康課 白井、子育て支援課 山本、浅利
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 （１）第２期子ども・子育て支援計画に基づく令和５年度進捗状況に対する質問・意見への回答について （２）さぬき市こども計画素案について （３）パブリックコメントの実施について ４　その他 ５　閉会
配付資料	・次第、委員名簿、ＦＡＸ送信票（議題２について） ・さぬき市こども計画（素案） ・パブリックコメントの実施について
その他	傍聴者なし

議事内容	
事務局	・開会
会長（進行）	・挨拶
事務局	・会議の成立、出席者確認について ・会議の公開について（傍聴希望者なし）
会長（進行）	・議題（１）第２期子ども・子育て支援計画に基づく令和５年度進捗状況に対する質問・意見への回答について、（２）さぬき市こども計画素案について、事務局から説明願いたい。
事務局	・配付資料確認 ・ＦＡＸ送信票説明 ・議題（１）第２期子ども・子育て支援計画に基づく令和５年度進捗状況に対するの質問・意見への回答については、完了していないため、次回の会議で報告します。素案に反映したものや現時点で回答できるものは、素案の説明後に回答します。
（株）ぎょうせい担当者	・さぬき市こども計画 素案説明
事務局	・議題（１）について、現時点でできるものを回答します。 ・令和５年度の進捗状況にあったパパママ教室の充実について「令和５年度事業実施内容に参加者同士の交流についての課題意識が述べられているが、令和６年度事業の実施予定内容には、言及がなかった。活動内容や形態の工夫で課題解決を検討しているということでよいか」というご質問がありました。事務局の回答として、課題解決のために、68 ページ「パパママ教室の充実」の具体的施策の内容の記載を「体験型の講義を盛り込み、参加者同士の交流を図るなど、参加者のニーズに応じた教室の開催に努めます。」としています。 ・71 ページ「子育て支援情報の提供」の中にある「さぬきッズダイアリー（子育て支援アプリ）」について、ダウンロード数のご質問がありました。ダウンロード数は令和５年度末で 505 件、令和６年度 12 月 16 日現在で 545 件となっています。保護者１人に対してのダウンロードになるので、子どもの数とはリンクしていないと聞いています。 ・同ページ「総合相談窓口の機能強化」にある「さぬきッズ子育てサポートセンター」の名称について「前回の計画の進捗状況の中では、子育て世代包括センターとさぬきッズ子育てサポートセンターの２つの表示がある。なぜ２つの呼び名があるのか」というご質問がありました。子育て世代包括センターは、妊娠、出産、育児を切れ目なくサポートするための総合窓口をいいます。本市では、令和元年５月に開設された「さぬきッズ子育てサポートセンター」がその役目を担っていることから、名称が「さぬきッズ子育てサポートセンター」となっています。場所はさぬき市寒川町舎２階窓口で、国保・健康課と幼保こども園課、子育て支援課の３課で運営しています。

議事内容	
事務局	・92 ページをご覧ください。「さぬきッズ子育てサポートセンター」は、現状では「子育て世代包括支援センター」、確保の内容では「こども家庭センター」と表示しています。しかし、国の法改正により、令和７年４月からの子育て世代包括センターの機能と子育て支援課に設置された家庭児童相談室の機能が一体となり、全ての妊産婦や子育て世帯、子どもに対して、母子保健、児童福祉の両面から相談支援を行う機関「こども家庭センター」の設置に向け、現在準備に取り掛かっています。ただし、本市においては、引き続き名称として「さぬきッズ子育てサポートセンター」を使用する予定です。 ・「進捗状況で障害のある子どもの受入れについて、全ての幼稚園、保育所等で受け入れる、とあるが、公立園のことなのか、それとも私立でも全て受入れを実施しているのか」というご質問がありました。事務局の回答としては、77 ページの計画目標として「公立私立全ての幼稚園、保育所等で障害のある子どもを受け入れる」としています。私立施設については、受け入れる側の体制の整備の問題等があり、一概にはいえませんが、障害のある子どもを受け入れる施設に対する給付費の加算を支給しています。 ・「ファミリー・サポートセンター」の運営について「会員におねがい会員とまかせて会員、どっちも会員の３種類あるが、どのような区別があるのか」というご質問がありました。101 ページに会員の区別の説明があります。おねがい会員は育児の支援をお願いしたい人、まかせて会員は育児の援助を行いたい人、どっちも会員は、おねがい会員とまかせて会員を兼ねる人のことをいいます。 ・その他いくつかのご質問があり、予算審議に関わるものもありました。現時点では詳細な回答ができないので、お詫びします。それ以外のご質問は、第４回の会議で最終報告をします。
会長（進行）	・議題（２）について、意見等あれば伺いたい。 ・保育士の人材確保に関心がある。保育士の人材確保について、考えていることがあれば伺いたい。また、大学の卒業生の中には、早くに辞めてしまう者がいる。早期に退職する職員に長く勤めてもらうというのも重要だと思うが、何か考えていることがあれば教えてもらいたい。
事務局	・保育士の確保は、正直なところ今も大変です。途中入所の対応では、保育士の確保が一番大事ですが、年度途中の採用は本当に厳しいです。幸いなことに、年度初めの募集については、大方集まる状況になっていますが、保育士確保の施策は思案しているところです。妙案がなく、困っているところです。できるだけ、年度初めに採用して対応していきたいと思いますが、予算が関係してくるので、年度初めに全ての人材を確保することが難しいところがあります。とはいえ、できるだけそうしたいと思っているところです。

議事内容	
会長（進行）	・大学でも、保育士や幼稚園の先生を目指して入学する子どもが激減している。短大の保育学科と私の勤務する発達科学部の子ども発達学科という２つがあるが、８年前と比べると、保育関係の職員を目指す学生が７割くらいに減った。県下には、もう一つ香川短大があるが、入学する学生が半数にまで減っている。昨今、保育の職業はブラックだと、風評被害ともいえるようなことがたくさんあり、１年生から「保育士になりたいと言ったら、家族総出で大反対された」という話も聞く。人材確保が困難な状況に拍車をかけているところがあると思うので、保育の現場から、仕事のやりがいや素晴らしさを発信していく機会があればよいと思っている。
事務局	・保育士の人手不足について、年度途中で入ってもらえないという問題点はありますが、以前と比較して賃金は大分改善されました。また、子ども一人あたりの定数も多少見直され、職場の環境は改善されつつあります。風評被害や「ブラック」というイメージを改善して、人員の確保にあたらないといけないと考えています。
委員	・デリケートな質問がある。86 ページに自殺対策の推進があるが、昨日、小中高生の自殺が最多の 527 人というショッキングな記事が出ていた。全体の数は減っているが、子どもの自殺が増えている。人口 10 万人あたりの自殺者は 16.3 人、香川県は 17.8 人になっており、県では 172 人くらいが自ら大事な命を絶っている。さぬき市の現状はどうなのか、また、具体的な取組はどうしているかを聞きたい。
事務局	・記事を見ていないため、細かいことは分かりかねますが、香川県が出している自殺者の統計によると、さぬき市は県の平均を下回っており、直近では自殺者がいないと記憶しています。 ・取組については、具体的には２つの取組を実施しています。まず、中学生を対象に、精神科医や心理士といった専門職を招いて学校に出向き、全校生徒を対象にした心の悩みに対する講演会を開催しています。講演会後は、生徒にアンケート調査に答えてもらい、次の機会に生かしています。講師の都合もあるため、市内３中学校持ち回りで、各年度に一度の開催となっており、今年度はさぬき南中学校で開催しました。 ・もう一つは、中高年の自殺も一定数があるという報道等があるので、男女問わず 50 歳から 70 歳くらいの人を対象とした研修を年１回、寒川庁舎で開いています。70 歳くらいまでを対象としていますが、実際は 80 代半ばまでの年代の利用者が多く、男女比では男性が２割に対し女性が８割と、女性が多い傾向にあります。
委員	・講演会は生徒向けに開いているとのことだった。命は一番大事なので、子どもたちを指導する幼稚園、保育園や小学校、中学校の教職員の研修をはじめ、道徳や学活等日々の活動の中で、折に触れて命の大切さや今自分が生存していることは奇跡で大切だということを考えさせるようにしてもらいたい。先生もそれを再認識して指導するように、行政も応援してもらいたい。

議事内容	
事務局	・補足説明します。中学生を対象とした講演会は授業の一環なので、全ての教職員にも参加してもらっています。また、希望があれば、保護者にも参加してもらっています。
会長（進行）	・子どもの自殺については、４年前、全国的に 100 人くらい増えて、それ以降 500 人くらいだ。昨年、過去最高を記録したことに併せて、ＴＢＳ系のニュースキャスターが「子どもたち、とにかく逃げてください」という言葉を発し、インターネット上で非常に共感を呼んでいた。子どもを保護するための逃げ場という視点も必要なのかと感じた。
委員	・少子化でありながら、自殺する子どもが増えていることを心配している。自殺に至る原因として、いじめが大きな割合を占めるのかなと思っている。不登校の児童が増えているという背景もある。素案には、子育て関連は多く盛り込まれているが、子どもの声を聴くところが追い付いていない部分があるので、心のケアを大事に考え、子どもの心を聴くシステムがあれば、自殺まで至らず止められるのではないかと思う。 ・令和７年４月から、全国的にこども家庭センターの設置に向けて動いており、香川県も必要な人員の配置、専門職を作る動きがある。ここがうまく機能するために、土曜、日曜も支援できる民間の強みを生かせるよう進めているようだ。先のことになるが、さぬき市も土曜、日曜も支援できる民間に委託して 24 時間サポートできる体制を検討する必要があるのではないか。 ・95 ページに子育て短期支援事業についての説明がある。私は県の社会的養護ワーキンググループに入っており、ここと同じように令和 11 年度までの子育ての関係の会議に入っている。そこでは、できれば地域の里親に事業を委託し、子どもの生活を継続しながら守る、例えば地域から学校へ通える体制で事業を行えたらよいという話があった。子育て支援課は地域にどのような里親がいて、どういう支援ができるかまでは至っていないと思うが、短期支援事業を地域で行っていこうという話があったので、伝えておきたい。
事務局	・ショートステイ事業を利用する家庭が年間で数件あります。子育てに困っている、どうしてもこの期間に親が関われないなど、様々な背景を持った家庭があった場合はサポートをしています。先ほどのご意見にあったように、市内の里親に預かってもらうことで引き続き学校に登校できるというのはメリットだと思いました。香川県と情報を共有しながら、どういった解決の方法があるのか検討しながら進めたいと思います。ご紹介ありがとうございました。

議事内容	
会長（進行）	・76 ページからの特別な支援が必要な子どもへの支援では、ひとり親の自立支援や障害のある子どもへの支援、児童虐待防止対策の推進の３つが基本施策としてある。特別な支援が必要という点では、外国にルーツを持つ子どもというのが都会では大きな問題となっている。今後、日本国内の労働力不足等を解消するためには、外国人の移住や労働者の雇用が重要になってくるが、労働者の子どもの教育が重要な課題にもなってくると思う。外国にルーツを持つ子どもの現状は分からないが、さぬき市はそういう視点や支援について、検討が必要な段階には至っていないのか。
事務局	・まだ検討に至っていないのが現状です。全国的に見ると、外国にルーツを持つ子どもについては、例えば子どもは日本語が話せるが親は話せないことから、子どもが通訳をするというヤングケアラー的な役割を担い、学校に行けないという事例を紹介してもらったことがあります。素案に入るとしたら、基本目標４だと思うので、ご提案をもとに検討したいと思います。
会長（進行）	・自分の経験を踏まえて質問したい。 ・現在、合計特殊出生率は、かつて出産適齢期と考えられていた年代の女性は低下しているが、35 歳や 40 歳を超えた女性はわずかながら増加傾向にある。高い年齢で出産する人のケアも必要になると思う。 ・比較的高い年齢で出産する人へのケアが、重要な課題になってくるのではないかという気がしている。実際に 35 歳以上の合計特殊出生率が上がっていることや男女共同参画が進み、ある程度企業等で自分の地位や存在価値を確立してから子どもを生みたいと希望する女性もいるかもしれないことから、高い年齢で出産する人へのケアはどうかということが疑問になっている。また、医療技術の進歩により、かつては救われなかった命が救われるようになってきた。喜ばしい一方で、医療的なケアを必要とする子どもが増えている。障害のある子どもたちを幼稚園や保育園で受け入れる場合、医療的ケアを必要とする子どもへの対応として、どういうことが今考えられそうかということも疑問になっている。
事務局	・医療的ケア児の受入れについては、市内で数件の実績があります。就学前施設や小中学校、放課後児童クラブでも受け入れる可能性があるので、昨年度から担当課をはじめ、さぬき市民病院の医師や専門の有資格者、現場の先生と連絡調整しながら医療的ケアのガイドラインを策定しました。

議事内容	
事務局（続き）	・就学前施設については、施設の体制が整うかどうかもあるので、入所の判定の際に十分に状況の把握をし、検討しています。小中学校については、入学を前提としているので、体制を整備しています。放課後児童クラブについては、小学校と就学前施設のガイドラインを少しずつ取ったような形です。３つそれぞれのガイドラインを策定して、ハンデのある子どもも受け入れられるように取り組んでいます。 ・妊娠中、出産にあたり、様々な不安を抱く人のケースだと思いますが、子育て支援センターを開設し、子育て支援相談員を配置しています。妊娠中から出産にかけて、出産後の育児についての悩みを聞き、助言することは可能かと思います。ただ、医療等が優先する場合もあると思うので、あくまでも子育て支援相談員の知識の中でのことになるので、難しい部分があると考えています。また、残念なことに子どもを亡くし、深い悲しみを持っている親や夫婦へのケアについては、さぬき市は遅れているのが現状ですが、香川県や高松市で様々な取組をしています。今年の春を目途に、自殺対策の心のケア同様にホームページに、安心して相談できる場所を明示していきたい、さらには深く専門的な話の場合は、県等とリンクして相談先を明示できる形で対応していきたいと考えているところです。
会長（進行）	・そのほかにあれば伺いたい。 ・なければ、議題（３）パブリックコメントの実施について、事務局から説明願いたい。
事務局	・パブリックコメント（意見公募）について説明
会長（進行）	・意見等あれば伺いたい。 ・特になければ、議題（３）を終了する。全体を通して、意見等あれば伺いたい。 ・事務局から連絡事項があれば、説明願いたい。
事務局	・今後の予定について
会長（進行）	・ほかに何かあれば伺いたい。 ・素案を見て更に意見があれば、また伺いたいと思う。 ・なければ、会議を終了する。 ・閉会

以上